

総長代理
牧 慎太郎

○兵庫県企画県民部長



広がれ! 交流の輪

兵庫県において、幅広い県民の皆さんが参加して船旅による交流事業が始まったのは、昭和40年代のことです。当時としては実に先進的な雄県兵庫を象徴する夢とロマンを乗せた取り組みでした。さらに歴史をさかのぼると兵庫・神戸の港は平安時代に大輪田の泊と呼ばれた頃から大陸との国際交流の窓口でした。他府県で大型客船をチャーターした交流事業が次々と廃止される中で、ひょうご県民交流の船も今回から隔年実施となりましたが、個人でも手軽に飛行機で海外に行ける時代だからこそ、この歴史ある兵庫・神戸の港を基点として、18歳から88歳まで幅広い年齢層にわたる総勢450名の県民が、船旅の醍醐味であるゆったりとした時間の流れの中で世代間交流を深め、草の根の国際交流を図ることの意義は大きいと思います。

今回の県民交流の船ではハプニングもありました。モンゴルコースでは初日は半袖でも汗ばむような陽気で、夜は草原に寝転んで満天の星を堪能できたのですが、翌朝には雪がちらつき始め、モンゴル高齢者協会との交流が終わる頃には街はすっかり雪景色。帰路は14年ぶりの大寒波の襲来でウランバートルからの飛行機の出発が11時間遅れ、北京空港に到着したのは深夜3時。まんじりともせず空港ロビーで朝一便を待っていたら、今度は機材故障のため出発便が5時間後に変更となるなど、まさに夜を徹しての強行軍となりました。参加メンバーの皆さんの忍耐強さに深く敬意を表するとともに、遅れて到着した我々を大連港で温かく出迎えてくださった皆さんに心から感謝します。

こうした9日間の船旅における共通体験や交流活動を通じ、人と人のつながりを深める中で生まれる連帯感は、きっと心豊かで活力ある地域社会を創り上げる原動力となることでしょう。県民交流の船を降りてからも、このような交流の輪が広がり、明日の兵庫づくりにつながることを期待しています。